

2007くらしのサポーター通信No.17

2007.10発行

ハイライト:

□今月のテーマ:もうかる話に要注意

□交流コーナー:[くらしのセミナー](#)

:[コラム“数字「一」は名前では「はじめ」と読む”](#)

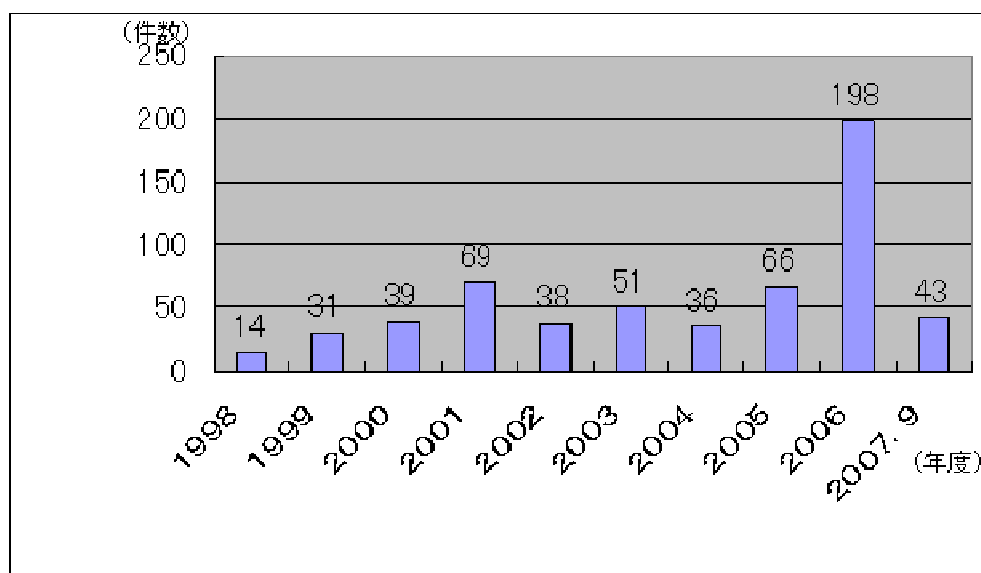
もうかる話に要注意

消費者情報センターには、「銀行に預けるよりも利率が良い」「何をしなくても、お金がどんどん増える」「1年後には2倍になる」など高配当をうたう業者に多額の金銭を出資したものの、「配当金が支払われない」「出資金が返還されない」といった相談が多く寄せられています。

出資してしばらくの間は約束どおりに配当金が支払われることが多いため、業者を信用してさらに出資している消費者もいますが、最終的には配当金額が出資金額に及ばないケースがほとんどです。

その中には、退職したばかりの消費者が「配当金で生活をしていくつもりで、退職金をすべてつぎ込んだ」というケースや、余裕資金のない年金生活者が「配当金で生活しようと老後の生活資金をつぎ込んだ」という深刻なケースも少なくありません。

こういったトラブルは過去から同じように繰り返されていますが、配当金の支払いが滞ったり、業者が逮捕・倒産等するまで被害は表面化しにくく、出資金が返還される可能性も低いことから、あきらめてしまい、潜在的な被害も多いのではないかと考えています。



■徳島県消費者情報センターに寄せられた1998.4～2007.9の10年間の「投資や出資等」に関する相談件数の推移

1 相談の傾向

消費者情報センターに寄せられたこのような投資や出資に関する苦情相談の傾向については、次のとおりです。

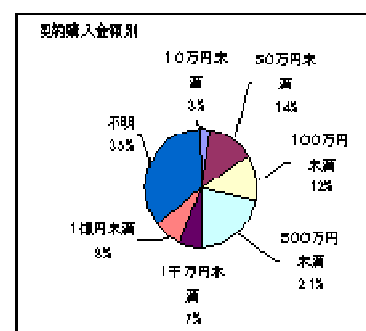
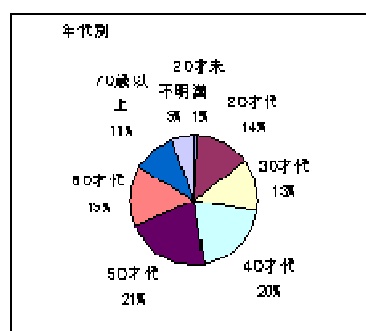
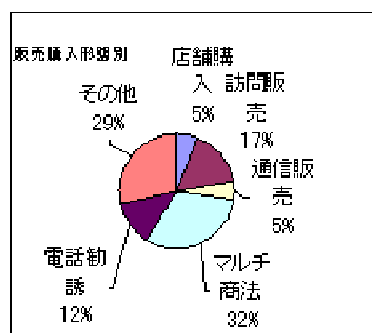
○1998.4～2007.9の10年間で寄せられた相談件数は585件です。そのうち、昨年度発生したペルル問題は全体の3割を占めています。

○販売購入形態別には、マルチ商法が3割、訪問販売が2割、電話勧誘販売が1割です。

○相談者の年代別には、50歳代、40歳代が2割と多く、次いで60歳代と中・高齢層のトラブルが目立ちます。

○契約購入金額別には、100万円以上500万円未満が2割と最も多く、1,000万円を超えるものも1割を超えています。契約金額の平均は約380万円になります。

○相談のキーワードは、「出資」「投資」「配当」「もうかる」等です。



2 トラブルの事例

消費者情報センターに寄せられたこのような投資や出資に関する苦情相談の事例については、次のとおりです。

事例1（証拠金取引）

電話のあと、自宅にきた営業担当者に、もうかると勧められ、外国市場の金の証拠金取引を契約したが、次々と追証を請求され既に数百万円を投資している。もう解約したい。

事例2（未公開株）

未上場会社の株の購入を勧められ、契約した。毎月、数万円払って、会社が上場するともうかると聞いているが、やはり、不審だ。

事例3（投資詐欺）

知人から1年で倍になると勧誘され信用し、エビの養殖事業に数百万円投資した。当初は、10日に1度配当があったが、途中から配当がなくなり、業者と連絡もつかなくなった。友達にも勧めている。返金の見通しはない。本当に事業をしていたかどうか不明だ。

事例4（マルチ商法）

人を紹介するともうかると友人に誘われ、マルチ組織に入会した。ビジネス参加には商品購入が必要といわれ50万円のクレジット契約をしたが、思うように人を紹介できず、もうからないので止めたい。

事例5（マルチ商法2）

知人に銀行金利が低いのでこちらに投資した方がいいと勧められ、通信機器を購入し業務委託して収益の配当を受けるビジネスの会員になった。子や孫の代まで毎月年金のように配当金がもらえると勧められたが、知人もまだ配当金をもらっていないことがわかった。信用できないのでやめたい。

事例6（海外投資ねずみ講）

旧知の友人から海外の会社に投資をすると1年で2～3倍になると勧められ契約した。業者の信用性に疑いをもったので、解約したい。

3 トラブルへの対処

◎怪しい出資には、手を出さない

「高配当」や「元本保証」をうたっていても、決して「高配当」や「元本保証」が約束されたものではない。投資したお金が「多少のマイナス」ではなく「ほぼ全損」になることも多いので、決して手を出さないこと。

◎親しい人からの勧めであっても、きっぱり断ること

家族、親戚、友人、知人など親しい人からの勧めであっても、業者の信用性や出資の内容について、少しでも不明・不安な点があれば、きっぱり断ること。「投資対象は何か（本当に信用できる話か）」「解約条件がどうなっているか（いつでも解約できるか）」などを最低限確認しないと、被害に遭う危険性は高い。

また、新聞や雑誌等に広告が掲載されたり、有名ホテルや公共施設での説明会が行われても、それは業者の信用性とは一切関係ない。

◎あきらめずに消費者情報センターに相談すること

怪しい出資を勧められたり、「配当金が支払われない」「出資金が返還されない」などのトラブルにあったら、すぐに消費者情報センターに相談すること。

引用：国民生活センター怪しい「出資」の被害が続出！－「配当金が支払われない」「出資金が返還されない」－

交流コーナー

くらしのサポーターのみなさんの質問や情報をお待ちしています。

くらしのセミナー案内

正しい知識を身に付けて、賢い消費者を目指しましょう。

○と き 平成19年11月13日（火）19:00～20:30

◆講 師 金融広報アドバイザー 池上 憲治 氏

◆演 題 「投資信託について」
～基礎知識とチェックポイント～

○と き 平成19年11月27日（火）19:00～20:30

◆講 師 金融広報アドバイザー 玄蕃 芳江 氏

◆演 題 「外貨預金について」
～基礎知識とチェックポイント～

■会 場 徳島プリンスホテル 徳島市万代町3-5-1

■主 催 徳島県金融広報委員会・徳島県

■定員等 30名、参加費無料（先着順）

■お申し込み・お問い合わせ
徳島県金融広報委員会（徳島県県民くらし安全室内）
電話088-621-2258

くらしのコラム

数字「一」は名前では「はじめ」と読む

少し前のことだが、1999年が世紀末と思い込んでいたら2000年だったとの記憶がある。見方を変えて新世紀に視点をおけば、日本では一を名前で使う場合は「はじめ」と読ませていて、0は始めではない。空白の年をおかないのであれば世紀末は2000年である。

1の前に0を置くのは、書籍の目次で1章の前に「はじめに」とか序章とかを書き始めたことも一因だ。私が最近求めた本『「科学的」って何だ』は目次の他は1章から、『くらしの豆知識'06』は目次のほかに「はじめに」と「この本をお読みいただくにあたって」の2つのセクションがある。これらを含めているうちに序章や0章に当たるものが出来て0が始めに思えるようになったのだろう。

くらしのサポーター 三原茂雄

くらしのサポーター担当者より

怪しい投資詐欺のニュースを新聞紙上で多く見かけます。近未来通信、平成電電、L&G...

こういった投資詐欺の場合、被害者であると同時に、同じように勧誘し、加害者にもなっている場合が少なくありません。センターで過ごしていると簡単にもうかるうまい話なんか絶対ないと強く思います！

こういった詐欺以外にも、世の中、貯蓄から投資と移行し、何とか投資を勧められる機会も増えてきましたが、投資する場合には、とらぬたぬきの皮算用にならぬよう、知識を身につけ、仕組みを理解した上で行ってください。